

○計画期間：平成 25 年 7 月～平成 30 年 3 月（4 年 9 月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 28 年度終了時点（平成 29 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成 25 年 6 月 28 日に十日町市中心市街地活性化基本計画の認定を受け、「新たなにぎわい」に満ちた「魅力あるまち」の創造を基本理念に掲げ、「雪国でも快適で安心して暮らし続けられるまち」、「歩いて楽しいまち」、「いきいきとまちづくり活動ができるまち」を基本方針に、①「暮らす人を増やす」、②「訪れる人を増やす」、③「活動する人を増やす」を目標とした活性化事業を進めている。

①～③の目標を達成するため、主に以下の事業を進めている。

①屋根雪対策としての「克雪すまいづくり支援事業」や冬季の道路交通確保のための「道路消雪施設整備事業」。また、サービス付き高齢者向け住宅及びファミリー向け都市型住宅が「アップルとおかまち」として H27 年 9 月にオープンするなど、雪国でも安心して暮らせる環境づくりが着実に進んでいる。

②楽しく歩く環境をつくるために、（仮称）産業・文化発信館整備事業で十日町産業文化発信館「いこて」を整備し H27 年 6 月にオープンした。また、憩いの場の創出のために、老人デイサービス施設整備・子育て支援施設整備を進め、H27 年 9 月にオープンした。さらに、（仮称）市民交流センター整備では、地域内外の交流の場として H28 年 3 月に工事が完了し、H28 年 6 月に「分じろう」の愛称でオープンした。ソフト事業である中心市街地にぎわい力アップ事業では、市民が気軽に立ち寄れる場所を提供するなど、商店街と一体となった各種取組を進めることで、まちなかに新たなにぎわいが生まれつつある。しかし、中心市街地内に出店していたスーパーの撤退により、少なからず人通りへの影響があった。

③市民活動や交流の拠点をつくるため、（仮称）十日町市市民文化ホール・中央公民館整備を H27 年度に工事着手した。（仮称）市民活動センター・まちなか公民館整備は、H27 年度に工事着手し、H28 年 6 月に「十じろう」の愛称でオープンした。また、中心市街地活性化基金を活用し、市民活動を支援することにより新たな活動の取組が始まってきている。

H28 年度にオープンした『市民交流センター「分じろう」』と『市民活動センター「十じろう」』2 施設の利用者数合計は約 52,000 人であり、施設を整備したことにより新たな活動が生まれ、「新たなにぎわい」に満ちた「魅力あるまち」へ十日町市は力強く歩みを始めた。

2. 平成 28 年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

随時、協議会を開催してフォローアップ実施年度における取組や事業の進捗状況について、民間や行政などの各事業者からの報告・検討が行われたほか、実施年度以降に予定されている事業についても協議が行われている。

中心商店街では、行政が担う事業の『市民交流センター「分じろう」』、『市民活動センター「十じろう」』が昨年 6 月にオープンして以降の入場者数は 5 万 1 千人を超えて市民活動の拠点とし

てその機能を果たしているほか、本年秋に完成予定の「越後妻有文化ホール・十日町市中央公民館」においても各市民団体による竣工に合わせた様々な催事が計画されており、市民活動や交流の拠点として大きな効果を発揮してくれるものと期待している。

また、中心市街地整備推進機構の「NPO法人にぎわい」においては、「まちなか元気応援助成金制度」により活性化を図るための担い手となる団体・グループ活動を支援したり、地域住民を巻き込んだ「花と緑のプロジェクト」、中心商店街で毎月10日に開催される「とおか市」、地元の高校生による「青春フェスタ」、将来を見据えた「知恵出しミーティング」などの多くのソフト事業を展開している。

このように官民が連携して事業に取り組むとともに、施設の完成後には地域住民や商店街も一体となったイベントが実施されるなど、中心市街地活性化に対する機運は高まっており、基本計画は概ね順調に進捗していると評価する。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
暮らす人を 増やす	人口の社会動態 (H25～H29年)	(H19～H23年度 の合計) ▲85人	(H25～H29年度 の合計) 社会動態をプラス	－22人	①	①
訪れる人を 増やす	歩行者・自転車通行量 (平日)	5,841 人/日	6,400 人/日	4,088 人/日	①	①
活動する人 を増やす	文化、活動施設の利用 者数及び屋外活動者数 (年間)	(H19～H23年の 平均) 126,682人/年	(平成29年) 148,000人/年	172,971 人/年	①	①

＜取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類＞

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

①人口の社会動態（H25～H29年）

H25年からH28年の人口の社会動態は－22人となっている。これは、市街地で大規模建築工事が一段落したことにより、企業による賃貸住宅借り上げの終了などにより転出・転居者が増加したものと推察される。今後は、H27年9月にサービス付き高齢者向け住宅、ファミリー向け都市型住宅として整備が完了した「アップルとおかまち」への入居者の増加が期待される。また、平成24年度に事業完了した駅西区画整理地内において、克雪すまいづくり支援事業を活用しての新築が見込まれること、及び、区域外からの住み替えが進むことが予想されることから、動態の合計もプラスに推移するものと思われる。

②歩行者・自転車通行量（平日）

数値的には基準値を下回っている。対前年比で約 84%となっているが、この大きな要因として、昨年 2 月に中心市街地内に店舗していたスーパーが閉店したことがあげられる。このスーパー付近の調査地点では、一昨年より 30%以上の通行量減であった。また、調査時点では『市民交流センター「分じろう」』、『市民活動センター「十じろう」』がオープンしていないなど、ハード事業がすべて竣工やオープンを迎えていないことも基準値を下回っている要因としてあげられる。

今後、「越後妻有文化ホール・十日町市中央公民館」が竣工し、すべての施設がオープンすることで、施設利用者などによる人の流れが変わり、歩行者・自転車通行量も増加するものと見込まれる。また、活動する団体に補助金を出すなど新たな活動が生まれることへの支援や、市報やホームページなどを通じて施設の PR をするなど、ソフト事業に力を入れることにより、施設の利用者が増え、歩行者・自転車通行量が増加し、目標の達成は可能と見込まれる。

③文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数（年間）

数値的に、基準値を大きく上回った。これは、活動を行う中心施設である『市民交流センター「分じろう」』、『市民活動センター「十じろう」』がオープンし、当該施設を活用した活動者数が増加したことが大きな要因である。

今後、「越後妻有文化ホール・十日町市中央公民館」がオープンし、各施設間の連携が図られることにより、各施設の利用者がさらに増えるものと見込まれる。

3. 前回のフォローと見通しが変わった場合の理由

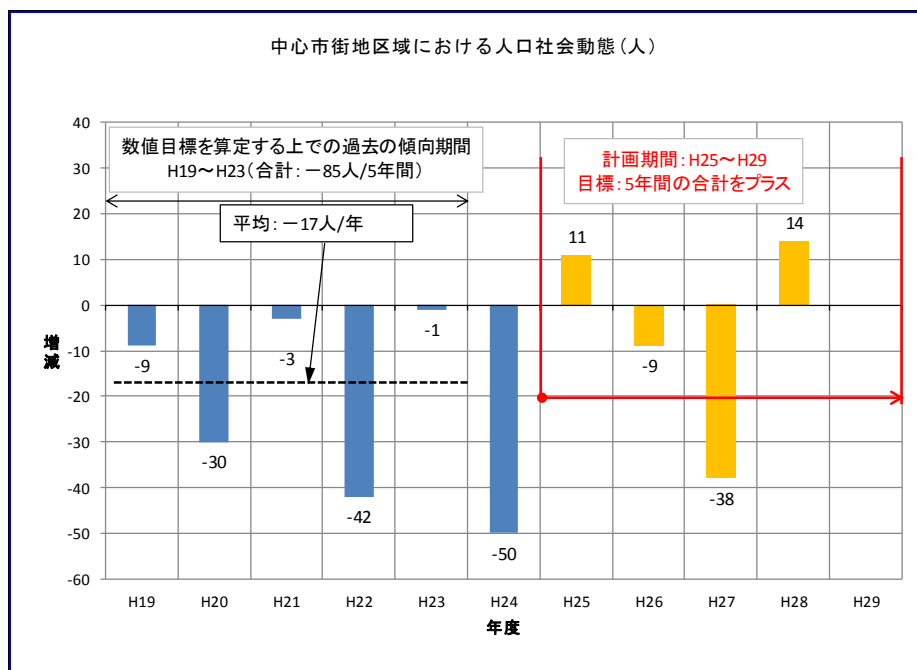
前回フォローアップは実施から変更はない

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「人口の社会動態」(H25～H29 年度の合計)

※目標設定の考え方基本計画 P113～P116 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H23	▲85 人 (基準年値) H19～H23 合計
H25	11 累積: 11
H26	▲9 累積: 2
H27	▲38 累積: ▲36
H28	14 累計: ▲22
H29	H25～H29 合計プラス (目標値)

※調査方法: 計画期間(平成 25～29 年度)の住民基本台帳に基づく

中心市街地の居住人口の社会動態の合計

※調査月: 毎年 3 月 31 日

※調査主体: 十日町市

※調査対象: 計画区域(中心市街地の居住人口)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. サービス付き高齢者向け住宅整備事業

・ファミリー向け都市型住宅整備事業(株)ファイン・テン)

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	構造: RC 造、地上 4 階、地下 1 階 サービス付き高齢者住宅: 50 戸(2～4 階) 延べ床面積 約 2,200 m ² ファミリー向け都市型住宅: 12 戸(5 階) 延べ床面積 約 500 m ²
事業効果及び進捗状況	(事業効果) 事業が完了すると、62 戸の住宅が供給されることにより、居住人口が増え、周辺地域のにぎわいの向上が期待される。 (進捗状況) 26 年 5 月に建築本体工事に着工、27 年 9 月に「アップルとおかまち」としてオープン。H27 年度、62 戸中 26 戸の入居があり、同地区の社会動態もプラス 20 と事業効果があった。 目標数値設定時に、この事業により増加する戸数及び人数は、39 戸 76 人であったが、H28 年度の入居数は 36 戸 38 人であった。前年度に

	比べて入居戸数は増えたものの、単身世帯による入居が多く入居者数の増加につながっていない状況である。
--	---

②. 克雪すまいづくり支援事業（十日町市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	屋根雪処理による落雪事後の防止や雪国でも快適に生活するために、屋根融雪装置を設置した住宅及び融雪構造にする住宅の建設・改造への支援を行う。 ・通常助成額 44 万円（全市） ・嵩上げ支援 66 万円（中心市街地区域）
事業効果及び進捗状況	（事業効果） 人力による雪降ろしなど住宅の屋根雪処理に過大な負担と危険の軽減、冬期の居住環境の改善が図られ、雪国でも安心して快適な生活が送ることが出来る。 （進捗状況） H25 年 12 件、H26 年 10 件、H27 年 11 件、H28 年 8 件の市街地の克雪化が図られている。

③. 道路消雪施設整備事業（十日町市）

事業完了時期	平成 25 年度【済】
事業概要	消雪パイプの敷設 市道山本高山線 L=340m
事業効果及び進捗状況	（事業効果） 冬期間の機械除雪の堆雪により道路や歩道幅員が狭小になることから、消雪施設を整備することで、通年を通した自動車及び歩行者の安全で快適な通行の確保に寄与している。

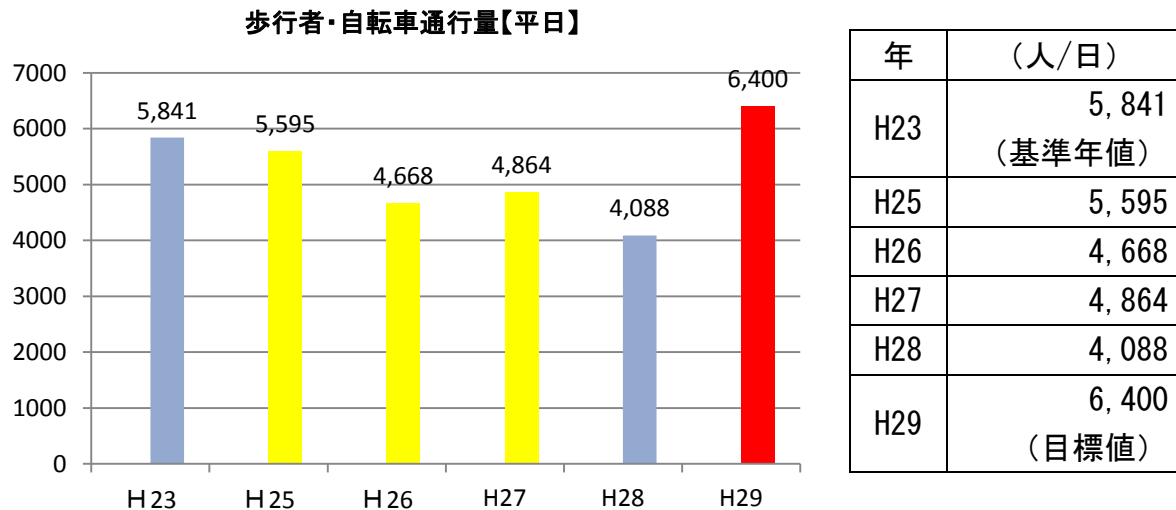
●目標達成の見通し及び今後の対策

計画地域内の「人口の社会動態」（H19～H23 年度の合計）基準年値－85 人に対し、H25 年＋11 人、H26 年－9 人、H27 年－38 人、H28 年＋14 人であり、累計－22 人となった。十日町駅西土地区画整理区域における宅地供給については、目標数値設定時に 5 年間で 8 区画の分譲、及び民間事業者による 8 戸分の集合住宅を加えることで増加人数を 42 人と見込んでいた。実際、集合住宅の建築はなかったものの、分譲地については、目標より多い 9 区画が売却されたことにより人口増が図られた。今後も、残りの 13 区画の販売による住宅の建築と民間供給集合住宅の建築等により転入者の増加が見込まれる。また、アップルとおかまちへの入居者数の増加も期待されることから、目標の達成は可能と見込んでいる。

これからも、「克雪すまい住まいづくり支援事業」「まちなか居住共同住宅供給事業」「まちなか住み替え促進事業」などの支援を継続し、制度の周知を図りながらまちなかへの転入を促進していく。

「歩行者・自転車通行量」（平日）※目標設定の考え方基本計画 P117～P125 参照

●調査結果の推移



※調査方法：歩行者・自転車通行量調査 毎年5月第4日曜日及び木曜日

※調査月：毎年5月

※調査主体：十日町市

※調査対象：中心市街地内6地点における歩行者及び自転車の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①.（仮称）市民交流センター整備事業（十日町市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	施設のリニューアル RC造4階建、1～2階を改修、改修面積約900㎡ ・情報ラウンジ、文化歴史コーナー（1階） ・和室、茶室、会議室（2階）
事業効果及び進捗状況	（事業効果） 来街者への中心市街地や地域内外の情報提供やまちの文化・歴史を感じられる場所とすることで、地域内外の交流が深まり、市街地を訪れる人が増える効果が期待できる。 （進捗状況） 27年6月に建築本体工事に着工、28年3月に竣工し、28年6月に十日町市市民交流センターが愛称「分じろう」としてグランドオープンをした。 市民交流センター整備により、歩行者・自転車通行量は104人/日と目標設定をした。H28年6月に施設がオープンしたが、歩行者・自転車通行量調査は5月に実施をすることから、施設整備による効果が数値に反映されていない

	い状況である。
--	---------

②. (仮称) 産業・文化発信館整備事業 (株フジタ)

事業完了時期	平成 26 年度【済】
事業概要	敷地面積：1,250 m ² 構造：木造 2 階建て 延べ床面積：1,200 m ² 1 階 日本酒バー、広場、雁木 2 階 交流スペース
事業効果及び進捗状況	(事業効果) 十日町の伝統や歴史を発信する市民や来街者の交流できる施設として、来街者が中心市街地内を回遊するための拠点となり、周辺地域のにぎわいの向上が期待される。 (進捗状況) 26 年 5 月に建築本体工事に着工、27 年 3 月本体工事完了。 27 年 6 月オープン。 この整備事業により増加する歩行者・自転車通行量は、410 人/日と目標設定したが、自動車での移動が多いため、効果把握ポイントでの通行量が目標まで届いていない状況である。

③. 老人デイサービス施設整備事業 (株ファイン・テン)

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	構造：RC 造、地上 4 階、地下 1 階 老人デイサービス (1 階) 延べ床面積：349.40 m ²
事業効果及び進捗状況	(事業効果) サービス付き高齢者向け住宅と併設した老人デイサービス施設を整備することにより、中心市街地で高齢者が安心して生活できる住宅環境の提供を行う。 (進捗状況) 26 年 5 月に建築本体工事に着工、27 年 9 月「アップルとおかまち」内にデイサービスセンター「アップルつまり」としてオープン。 老人デイサービス施設整備により、従業員の通勤や買い物などから、目標を 16 人/日の増と設定したが、概ね目標通りの効果を得ている。

④. 子育て支援施設整備事業 (十日町市)

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	構造：RC 造、地上 4 階、地下 1 階 延べ床面積：374.2 m ² 子育て支援センター (1 階)
事業効果及び進捗状況	(事業効果) 子育て支援施設を整備することによって、子育て世代が中心市街地へ訪れ

ることが期待される。

(進捗状況)

26 年 5 月に建築本体工事に着工、27 年 9 月「アップルとおかまち」内に子育て支援センター「くるる」としてオープン。

子育て支援施設整備により、自家用車以外の交通手段による利用者数の増は 4 人/日と目標設定をしたが、目標通りの事業効果が出ている。

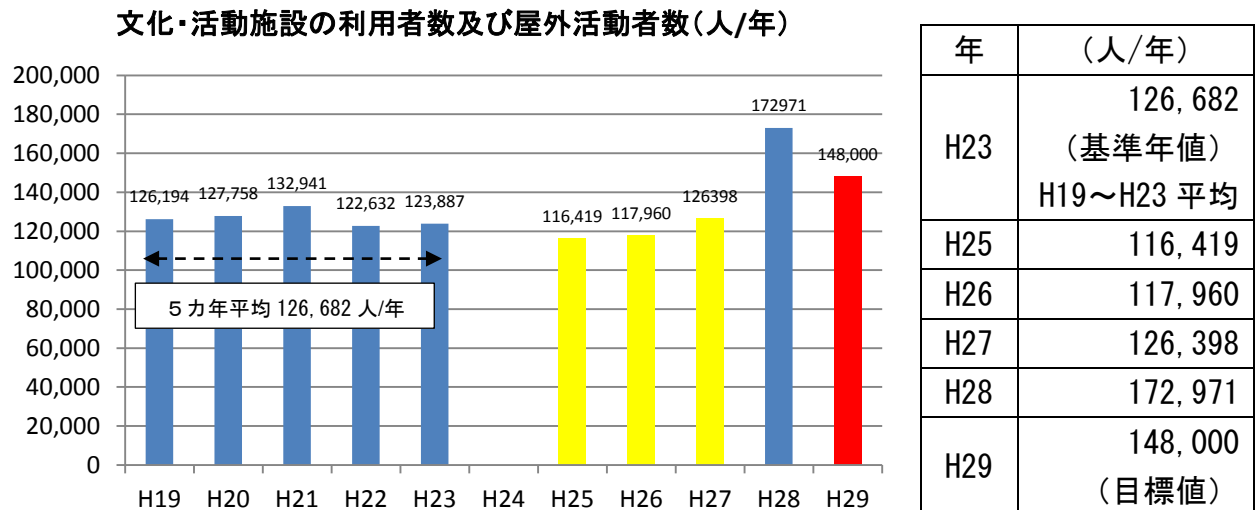
●目標達成の見通し及び今後の対策

「歩行者・自転車通行量」(平日)基準年値 5,841 人に対し、H25 年 5,595 人、H26 年 4,668 人、H27 年 4,864 人、H28 年 4,088 人となっている。H28 年は、対前年比約 84%と減少したが、これは中心市街地内に出店していたスーパーの閉店が大きな要因である。H28 年 6 月にオープンした『市民交流センター「分じろう」』、『市民活動センター「十じろう」』を利用した活動がどんどん増え、さらに今後整備中の「越後妻有文化ホール・十日町市中央公民館」が完成し、オープンすることにより、歩行者・自転車通行量も増加していくものと推測され、目標の達成は可能と見込んでいる。今後は、施設間の連携による、来街者の回遊性の向上と滞留時間の延長を目指していく。

「文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数」（年間）

※目標設定の考え方基本計画 P126～P132 参照

●調査結果の推移



※調査方法：公民館等の施設利用者や計画区域内で行われるイベントなどの参加者集計

※調査月：毎年度3月末日

※調査主体：十日町市

※調査対象：計画区域（中心市街地の公民館利用者など）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①.（仮称）十日町市市民文化ホール・中央公民館整備事業（十日町市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	敷地面積：約 13,900 m ² 市民文化ホール：客席 670 席程度、楽屋、練習室など 中央公民館：ぼかぼか広場、だんだんテラス、キッチンルーム、和室、多目的スペースなど
事業効果及び進捗状況	（事業効果） 公益施設のまちなか回帰を促し、コンパクトなまちづくりを進めることによって、中心市街地に人が集まり、活動・交流の場が提供され、地域のにぎわいを創出する。 この事業により、①利便性の高い施設の位置②駐車場台数の拡大③施設の充実を要因として、11,726 人/年の利用者の増加が見込まれる。 （進捗状況） 27 年 9 月に建築本体工事に着工し、29 年秋のオープンを目指している。

②. (仮称) 市民活動センター・まちなか公民館整備事業 (十日町市)

事業完了時期	平成 28 年度【済】
事業概要	低利用ビルの再生し市民活動やサークル活動の場として提供 敷地面積：380 m² 構造：RC 造、地上 3 階 延べ床面積：827 m² ・事務室、ギャラリー、倉庫（1 階） ・ワーキングラウンジ、個人ワークプレイス、プロジェクトルーム（2 階） ・創作スペース、工作スペース、準備室（3 階）
事業効果及び進捗状況	（事業効果） 市民の活動拠点施設と位置付けることにより、市民間の連携を深め、新たな取組や活動の活性化が図られる。 （進捗状況） 27 年 6 月に建築本體工事に着工し、28 年 6 月に十日町市市民活動センターが愛称「十じろう」としてオープンをした。 この整備事業により、市民活動センターの利用者数を 14,413 人/年と目標数値設定したが、28 年 6 月のオープン以来 10 ヶ月間で 17,906 人の利用があり、施設整備の効果が発揮されている。

③. コミュニティガーデン整備事業 (NP0 法人にぎわい、地域住民、十日町市)

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	中心市街地において、「花と緑」の一大プロジェクトを展開し、花と緑の作品設置によりまちなか回遊を促進する
事業効果及び進捗状況	（事業効果） 住民参加による中心市街地活性化の機運を高め、花と緑の作品によりまちなか回遊が促進され、にぎわいが創出される。「花と緑」を通じた十日町市民全体の連帯感が醸成される。 （進捗状況） H25 年度～事業実施 コミュニティガーデン整備事業による活動人数の増加は、1,450 人/年と目標設定をしたが、住民参加による中心市街地活性化の機運が年々高まってきており、今年度も活動人数は目標数値を上回り、事業の効果が出ている。

④. 市民健康づくり推進事業 (十日町市)

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	中心市街地内の約 5.3 kmにおよぶアーケードや歩道は、新潟県健康ウォーキングロードに登録されている。このウォーキングロードを活用し、定期的に市民が参加するウォーキングを行う。
事業効果及び進捗状況	（事業効果） まちなかまちじゅうノルディックウォーキングを中心市街地内で開催し

	H26 年 30 人、H27 年 11 人の参加者があった。H28 年からは民間スポーツクラブに委託することにより、専門性を高め、さらなる市民の健康増進を図りながら、中心市街地を回遊することによってにぎわいが創出されることとなる。 ※H28 年参加者：51 人 (進捗状況) H26 年度から事業実施、H28 年から民間スポーツクラブに委託 市民健康づくり推進事業による活動人数は、5,000 人/年と目標設定をしたが、市民のさらなる健康増進を図ることを目的に、事業の専門性を高めたことなどから、活動人数は目標に届いていない状況である。
--	---

⑤. 中心市街地にぎわい力アップ事業（NP0 法人にぎわい）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	中心市街地内の情報をラジオや、フリーペーパーで定期的な発信 まちなか拠点施設「まちのす」の運営 まちなか不動産情報の発信
事業効果及び進捗状況	(事業効果) まちなか拠点施設「まちのす」への来場者数が、H25 年度は 6,005 人であったが、H26 年度は 10,179 人、H27 年度は 15,701 人と増加している。H28 年度は 12,751 人と若干減ったものの、事業の実施により着実にまちなかでのひとの動きが変わってきている。 (進捗状況) H25 年度からまちなかのにぎわい創出のため、まちなか拠点施設の運営や広報、まちなか不動産情報の提供などの事業を行っている。

⑥. 中心市街地活性化基金による市民活動支援事業（十日町市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	基金：平成 27 年 3 月：16,000 千円 市民や民間事業の寄附による基金を活用し、まちなかでのにぎわい創出につながる活動をする団体に対し、助成金を交付している。 H27 年度から、中心市街地の 10 年後 20 年後を見据え、インフラが整う市街地をどの様に活用していくか、毎月 2 回商店街の若手を中心に「知恵出しミーティング」を行っている。
事業効果及び進捗状況	(事業効果) H25 年度は 12 件、H26 年度は 8 件、H27 年度は 6 件、H28 年度は 13 件の申請があり、新たな市民の活動が芽生えてきておりまちなかでの市民活動が活性化してきている。 「知恵出しミーティング」で発案された「高校生まちなか看板コンテスト」は、高校生 10 組 30 人が参加し、商店を取材し看板を制作・発表を行うコンテストを行った。市街地の商店街と関わりの少なかった高校生に対し、各商店の認知度が上がった。

	(進捗状況) H25 年度～事業実施
--	-----------------------

●目標達成の見通し及び今後の対策

「文化、活動施設の利用者及び屋外活動者数」（年間）基準年値 126,682 人に対し、H25 年 116,419 人、H26 年 117,960 人、H27 年 126,398 人、H28 年 172,971 人となっている。H28 年度に『市民交流センター「分じろう」』、『市民活動センター「十じろう」』がオープンし、様々なイベント等の活動により、施設利用者の増加に繋がった。

今後も、基本計画掲載事業の着実な進捗と各施設を活用したソフト事業を充実していく取り組みが必要である。

また、施設利用者の増加をより一層目指すために、各施設間の連携を図る必要がある。